

奈良地方気象台の沿革

明治30年1月1日	奈良県高市郡八木町に奈良県立八木測候所（2等測候所）として設立
昭和14年11月1日	文部省令による国営移管により八木測候所と改称
昭和17年3月30日	橿原測候所と改称
昭和18年11月1日	文部省より運輸通信省に移管
昭和20年5月18日	運輸通信省が改組され運輸省所管となる
昭和26年3月10日	機構改革により2課制（業務課、技術課）となる
昭和28年4月1日	橿原市から奈良市（半田開町）に移転し奈良測候所と名称変更
昭和31年7月1日	中央気象台は気象庁となる（運輸省の外局となる）
昭和32年9月1日	機構改革により地方気象台に昇格
昭和33年4月1日	総務課、防災業務課、技術課の3課制となる
平成13年1月6日	国土交通省設置法（平成11.7.16 法律第100号）の制定により運輸省は国土交通省に移管
平成25年10月1日	組織改編により課制から管理官制となる
平成29年3月9日	奈良市半田開町から奈良市西紀寺町に移転 露場は奈良市東紀寺町で隔測化